

編集部 滑稽俳句を始められたきっかけは？

前 田 現役をセミリタイアし、平成十七年頃から惚け防止のためにと俳句を始めました。数年前、松山吟行の旅で八木会長のことを知り、会長が選者の「愚陀佛庵インターネット句会」に応募するようになりました。何度か特選や秀逸を頂くうちに、滑稽俳句の魅力を感じる様になりました。

編集部 滑稽俳句の魅力とは？

前 田 滑稽俳句には、表面的な措辞の裏側に、何か本質的な面白さを感じさせるもの、それと無く納得させられる様な面白さがあるところですね。

編集部 俳句における「滑稽」とは？

前 田 元々俳句は、「滑稽」を詠むものです。最近の俳句の傾向は、単なる写生や難解な言い回しに凝る傾向がありますが、易しい表現の中に、「成る程」、これは面白いと思わせる様な表現がなされているのが「滑稽」だと思います。

編集部 滑稽俳句を始めて良かった事は？

前 田 単なる景色の写生ではなく、色々な考え方や物の見方に対する幅が広がった事でしょうか。

編集部 滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

前 田 現在の俳句ブームの中で多作されているような表面的な見方や表現をしているは駄目です。景に対する自分自身の個性的で多面的なもの見方、場合によっては裏側からものを観察する訓練が必要です。そして思い付いたら、時や場所を選ばず、どんどんと多作し、記録することです。

【代表句】

人生の一齣に似て山眠る
尺蠖や己の尺を測りかね
楽隠居しても忙しき水澄まし
ああでもないかうでもない秋の空
成り行きに任せてしまふ浮巢かな